

(別添資料1)

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービスekubo

支援プログラム(参考様式)

作成日

2026 年

2 月

1 日

法人(事業所)理念		お母さんが輝く世の中にする。そのためには一人一人が世の中に役立つリーダーになる。							
支援方針		・医療ケアの安心安全は当たり前。5感フル刺激を意識しての支援、非日常の経験やイベントの提供をすることができる更には社会で活躍できるようにしたい(児発も放デイも1日預かり)							・母がレスパイト
営業時間		10 時	0 分	17 時	0 分	送迎実施の有無		あり	なし
		支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	疾患の理解を深め、受診時の結果、検査、内服等を聞き取り、資料として把握する。呼吸器の子供は常にモニターで数値の把握、聴診、視診等で健康状態の把握。浣腸、のを含めた排泄管理、肺音聴取し吸引、タッピング							
	運動・感覚	個々の成長発達や日々の体調に合わせて、ポジショニングや介助方法、使用物品の調整を行い、より安楽に過ごせ拘縮や変形の予防に努める。呼吸器リハの対象児には胸郭ストレッチや肺痰ドレナージを行い、肺炎							
	認知・行動	絵本の読み聞かせ、発達に応じたおもちゃを作って提供。触覚に関しては PTや保育士の考えを取り入れて感触遊びや感覚入力として手や足使って製作をしている。クッキングに関しては、味覚嗅覚も意識して嚥下の							
	言語 コミュニケーション	言語の獲得が難しい子供がほとんど占めているためジェスチャーやハンドサインによるコミュニケーションを、支援場面で(例えばトイレ行きたい)取り入れている。またイラストカー							
	人間関係 社会性	支援者が利用児に離れることはなく挨拶やしつけや対友達、対先生との関係性の構築を優しい言葉で伝えている。親以外のいろいろなサービス、人と関わりながら今後育つので、イベントや散歩を通じて地域にも出							
家族支援		医療ケア児を抱えた家族は、一人の時間は時間の確保も家事もままならずきょうだい児に関わる時間が確保しにくい。きょうだい児の多い家庭やメンタルケアが必要なご家族中心にきょうだい児の預かり、母のメンタルケアとを支援している。				移行支援		保育園や支援学校に移る際に支援学校等に出向き連携や情報提供を行う。母	
地域支援・地域連携		保育所、学校、事業所、訪問サービス等積極的な亭な情報交換(会議や動画、電話、対面)連携している。特に松原市においてはほぼセルフプランのため相談支援員に代わり処々手続きや必要に応じて他サービスの紹介等も支援している				職員の質の向上		年間必須研修の他に職種の分野から一つ勉強会を実施してもらっている。また保育実	
主な行事等		重心児でも重度で感覚、知覚機能も低い子供が多いため、5感がフルで刺激できるもの、スタッフの職種やスキルを生かしたもの、心に残るもの(母に対して)を考えて創意工夫のもと提供。行事は遠足、クリスマス、ハロウィーン等にリハビリ要素を取り入れた制作やクッキング。ほかの事業所にはない発想とエンタメで経験したことない特別なものを提供することを大切にしている。母やきょうだい児への行事参加も促し家族支援としても活用している。家族会は開催し母への特別時間を支援している。							